

まほろば



2021.4.5
第229号

『新年度を迎えて』

今年は花の開花が早く、桜は4月中旬に満開を迎え、5月早々にはリンゴ花祭りが始まりました。新年度を迎えて一言ご挨拶申し上げます。

さて、4月1日より新しく転入した病院職員は、小山輝義事務部長はじめ事務系職員3名、加藤武循環器内科医長ほか医師15名、内山恵子教育主事・吉田和美副薬剤部長はじめ看護師他メディカルスタッフ37名です。その55名中30名(医師6名、看護師20名、薬剤師2名、臨床検査技師1名、診療放射線技師1名)が、この春国家試験を合格し医療人として初期の研修を当院でスタートしました。

新たな診療体制に関しては、4月より循環器内科が二人体制となり、さらにリハビリテーション専門医が週1日診療を開始し、より充実した医療を提供できるようになりました。

新中核病院『弘前総合医療センター HGMC: Hiroasaki General Medical Center(仮称)』は、来年の4月1日の開院を目指して準備中です。工事の進捗状況は、大雪の影響により若干の遅れが出ていますが本年12月には完成予定です。新棟がオープンした後も、旧棟の取り壊し、駐車場の整備などで約1年ほど敷内での工事が続きます。患者の皆さんにはもうしばらく不自由をおかけ致しますが、職員一同、安全面に考慮し診療の質を維持するよう努める所存です。なにとぞご理解のほど宜しくお願いします。

とう さとし
特別統括病院長：藤 哲



看護学校入学式

4月6日、本校講堂において69回生の入学式が挙行されました。当日は学生たちを歓迎するかのような晴天に恵まれました。式典は今年度も昨年同様、新型コロナウイルス感染対策として、入学生と学校長、看護部長、学校職員のみでの出席で執り行いました。

学校長式辞では、病に苦しむ人々を慈しむ心は医療の原点であり、同時に科学的根拠に裏打ちされた知識・技術も必須であり、この二つが看護の両輪であること、自分の理想とする看護を学ぶ強い気持ちを持ち

ち続けて充実した学校生活を送るようお言葉をいただきました。

今年度は、47名(男子6名含む)入学し、社会人経験のある学生が8名います。教室に入ると少し例年と雰囲気異なり大人な感じを受けます。社会人経験がより良い刺激となりたくさんの良い影響をもたらすことを期待しています。様々なバックグラウンドのある人たちと関わることで、多様性を感じ、その中でいろんな考え方を学ぶ機会となり成長につながっていくことと思います。



(写真撮影のためマスクを外しています。)

教育主事：内山 恵子

職場紹介(臨床検査科)



当院の検査科は、検査科長、検査科医師、常勤検査技師 12 名、非常勤検査技師 2 名、助手 1 名の合計 17 名で構成されています。

検査科で行う検査は、直接患者さんに接して行う生理検査と、患者さんから採取した検体を検査する検体検査の 2 つに分けられます。当院検査科で行っている生理検査は心電図、脈波、呼吸機能、超音波検査、脳波、誘発筋電図等で、検体検査は細菌、病理細胞診、生化学、免疫、血液、輸血、凝固、一般に分かれています。検査科に通じる自動ドアを開けると先ず生理検査室があり、奥が検体検査室になっています。細菌検査では今話題の新型コロナウイルス PCR 検査も行っていますが、検査室が手狭な為、別の場所においてあり、そこまで出向いて検査をしています。

4 月から当検査科は医師 2 名以外すべて女性になりました。弘前市立病院との合併までの 1 年限定です。オール女子で新病院への引っ越しも頑張りたいと思います。

臨床検査技師長：三浦 ありさ

永年勤続表彰伝達式

令和 3 年 4 月 3 0 日（金）に独立行政法人国立病院機構の永年勤続表彰伝達式が執り行われました。本年の永年勤続表彰伝達式は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、昨年同様に職員の列席を控えていただくなど、規模を縮小した中で行われました。

伝達式では、勤続 30 年以上勤務者 5 名、勤続 20 年以上勤務者 3 名が表彰され、当日出席された表彰者に藤病院長から表彰状と記念品が授与され、同席した職員より盛大な祝福を受けました。

藤病院長より、長年に亘り国立病院機構のために努力された事、苦勞された事に対する労いと、健康に留意し引き続き良い医療を提供いただきたいとの激励の祝辞が述べられました。また、受章者を代表して経理系の横山多樹子さんが、表彰されたことを励みとし、これまでの経験を生かし、より良い仕事ができるよう努力していきたいとの謝辞を述べ、表彰式を修了しました。

表彰されたみなさん、永年勤続表彰おめでとうございます。今後も健康に留意され、一層活躍されることをご期待しております。

表彰者は、次のとおりです。

(庶務班長：越田幸樹)

【勤続 30 年以上】

経理係 横山 多樹子
教育主事 内山 恵史子
臨床検査技師長 三浦 ありさ
業務班長 舞原 範夫
看護師 今 徹子

【勤続 20 年以上】

副診療放射線技師長 坂爪 瑞樹
看護師長 堀籠 ゆき
看護師 齋藤 菜菜子



(写真撮影のためマスクを外しています。)

新採用研修医を迎えて

今回新たな基幹型施設して 5 名と、大学関連施設として 1 名を合わせて 6 名の新たな研修医を迎えることとなりました。2 年次の 8 名と合わせて 13 名の初期研修医が集うこととなります。後期研修プログラムを当院で行っている先生も含め、この地域において、世代間のギャップが解消されつつある大変喜ばしい状況となりました。

現在のこの地域において当院は、研修教育施設として大学と連携しつつも、専門的であるよりは、より総合的・全人的な医療、より地域に密着した形での医療を行うことが求められております。後期研修医制度が専門性の高い研修であるのに対して、それ以前の卒後 2 年間で初期研修医制度であり、初期対応、救急医療の研鑽を積むことが指針として示されています。

本年はコロナ禍の中、新棟への移設も行われる予定で、大変な船出となりますが、当院においても教育研修の場として、新たな研修医とともに、指導医も含め互いに切磋琢磨し、全員一丸となってよりよい医療を提供できるよう努力して参る所存です。

皆様方のご理解・ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

臨床研究部長：石黒 陽



研修医便り

研修医2年目竹本です。ダーウィンの名言に「最も強いものでも、最も賢いものでもなく、生き残る種とは、最もよく変化に適応したものである」というものがあります。昨今、世の中の情勢は目まぐるしく変化しており、未来の予測はほとんど意味をなしかねません。未来の予測ができない以上、いち早く現状の変化の兆しを捉え、それに応じて自らを変えていくものが強者となります。しかし、変化とは安定の反対、つまり不安定であり、多くの場合、人は不安定であることに強いストレスを抱きます。即ち、今の世界における強者の素質とは、不安定であることを楽しめる人なのかもしれません。残念ながら私は、世の中の変化を鋭敏に察知することにも、不安定さに対するストレス耐性にも長けてはいないようです。それでも私は、浅学菲才の身ではありますが、何とか生きていけるよう無い知恵を絞っている次第です。今日から明日への「変化」が少しでも良い変化でありますようにと願いをこめて、まほろばの原稿とさせていただきます。

臨床研修医：竹本 政宏



この原稿を書いている2021年3月、小児科で研修医として勤務しています。

小児科では採血・ルート確保・エコー・ワクチン接種・診察といった様々なことを指導医の丁寧な指導の元で施行することができるため、より実践に即した学びを得ることができます。また、指導医の先生方に質問した際には、毎回丁寧な解説をいただけます。質問せずとも多くのことを教えていただけるため、幅広い知識を得ることができます。佐藤工先生は、研修医に向けての講義を対面式で毎日して下さります。オリジナルの資料でとても分かりやすく、iPadに永久保存しています。

短い期間でしたが、小児科での勤務はとても充実していました。小児治療についてはもちろん、後進育成に対しての姿勢も非常に多くの学ぶべきことがありました。将来、どの科に進もうと小児と関わる機会は必ずあるため、会得した知識・経験を元にこれからも精進します。1か月間ありがとうございました。

臨床研修医：小野 海舟



新採用者を迎えて

令和3年度がスタートした4月1日、当院も昨年度に続き新型コロナウイルス感染症対策をしっかりとし新しい仲間を迎えました。看護部では、20名の新人が仲間入りです。新人研修では講義や演習で看護の専門的知識、採血や注射等の基礎看護技術等を学びました。緊張した表情の中にも瞳が希望に満ちていました。各職場で先輩看護師やスタッフの協力、支援を頂きながら患者様に安全に確実な看護技術を提供できるように頑張りたいと思います。将来の医療現場を牽引していく若い仲間の熱いパワーを大切に、今後大きく成長していくことを願い、これからも支援していきます。

教育担当看護師長：秋元 美穂子



看護部紹介

私は4月から当病院としては初の診療看護師（Japanese Nurse Practitioner：JNP）として復帰しました。診療看護師とは2年間の大学院修士課程において、医学知識と初期医療に関する実践を終了した看護師です。医学教育と合わせ、特定行為*が可能であり、医師の業務軽減を目的にできた制度です。たとえば、医師が不在または多忙であるときに、患者さんの状態を評価し、必要な検査や治療をタイムリーに行うことができます。また、治療方針などを理解し、診療・治療と看護の両方から患者さんやご家族に関わることも特徴だと思います。

とはいえ、まだまだ知識・技術ともに不足しており、2年間の研修で様々な診療科の勉強をしています。今後、この病院で診療看護師として何を求められているのか、自分の役割を明確にしなが、精進していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

*特定行為：厚生労働省が定めた行為であり、傷の処置、ドレーン管理や抜去、輸液管理などを含み、現在では21区分38項目の行為が特定行為として定められています。



(写真撮影のためマスクを外しています。)

診療看護師：前田 倅平

外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表 (令和3年5月1日～)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		加藤 武/反町悠也	加藤 武/反町悠也	加藤 武/反町悠也	加藤 武/反町悠也	横 田 貴 志
呼吸器内科		中 川 英 之	山 本 勝 丸	中 川 英 之	山 本 勝 丸	中 川 英 之
		山 本 勝 丸	下 山 垂 矢 子	下 山 垂 矢 子	下 山 垂 矢 子	下 山 垂 矢 子
		下 山 垂 矢 子	田 中 佳 人	田 中 佳 人	—	田 中 佳 人
		—	石 岡 佳 子	—	—	—
消化器・血液内科		松 木 明 彦	相 原 智 之	相 原 智 之	松 木 明 彦	相 原 智 之
		山 口 公 平	間 山 恒	松 木 明 彦	間 山 恒	山 口 公 平
		澤 谷 学	高 橋 一 徳	澤 谷 学	高 橋 一 徳	松 木 明 彦
		石 黒 陽	石 黒 陽	高 橋 一 徳	石 黒 陽	石 黒 陽
	午後 血液内科のみ	間 山 恒	山 口 公 平	間 山 恒	山 口 公 平	—
脳神経内科		中村崇志/木下 郁	清 野 祐 輔	—	清 野 祐 輔	清 野 祐 輔
小児科		敦 賀 和 志	佐 藤 工	敦 賀 和 志	佐 藤 工	杉 本 和 彦
		岡 本 剛	千 葉 智 子	佐 藤 啓	岡 本 剛	佐 藤 啓
		徳 竹 晴 香	石 山 永 美	千 葉 智 子	石 山 永 美	徳 竹 晴 香
外科		柴 田 滋	内 田 知 顕	柴 田 滋	内 田 知 顕	三 上 勝 也
		—	堤 伸 二	堤 伸 二	堤 伸 二	—
呼吸器外科		對馬敬夫/畑中 亮	對馬敬夫/畑中 亮	—	對馬敬夫/畑中 亮	對馬敬夫/畑中 亮
乳腺外科		小田桐 弘 毅	小田桐 弘 毅	小田桐 弘 毅	小田桐 弘 毅	小田桐 弘 毅
整形外科	午前	陳 俊 輔	秋 元 博 之	秋 元 博 之	陳 俊 輔	秋 元 博 之
		中 村 吉 秀	中 村 吉 秀	岩 崎 宏 貴	中 村 吉 秀	岩 崎 宏 貴
		岩 崎 宏 貴	陳 俊 輔	油 川 広 太 郎	油 川 広 太 郎	油 川 広 太 郎
脳神経外科		—	—	木 村 正 英	—	—
皮膚科	午前	熊 野 高 行	熊 野 高 行	熊 野 高 行	熊 野 高 行	熊 野 高 行
		是 川 あゆ美	是 川 あゆ美	是 川 あゆ美	是 川 あゆ美	是 川 あゆ美
	午後	● 予 約	● 手術/検査	● 予 約	● 手術/検査	● 予 約
泌尿器科	午前	松 本 哲 平	松 本 哲 平	松 本 哲 平	松 本 哲 平	松 本 哲 平
	午後	検 査	検 査	手 術	検 査	手 術
産婦人科		横 田 恵	當 麻 絢 子	追 切 裕 江	● 妊婦健診 (一般外来休診)	横 田 恵
		當 麻 絢 子	丹 藤 伴 江	丹 藤 伴 江		追 切 裕 江
眼科		蒔 苗 順 義	蒔 苗 順 義	—	蒔 苗 順 義	蒔 苗 順 義
耳鼻咽喉科		西 澤 尚 徳	西 澤 尚 徳	(手 術)	西 澤 尚 徳	西 澤 尚 徳
		松 下 景	松 下 景	(手 術)	緑 川 伸	松 下 景
放射線科	診断	佐々木 幸 雄	佐々木 幸 雄	佐々木 幸 雄	佐々木 幸 雄	佐々木 幸 雄
	治療	藤 田 環	藤 田 環	藤 田 環/松山 寛	藤 田 環	藤 田 環/辰尾宗一郎
女性専用外来		杉 本 菜穂子(※予約制/第1・第3水曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		佐 藤 温(※予約制/第2・第4木曜日14時～16時)				

- ※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。
- ※ セカンドオピニオン外来は第2・第4木曜日の14時～16時です。
- ※ 循環器内科、石田医師の診察は13時～16時です。
- ※ 放射線科、藤田医師・辰尾医師の診断は午後です。



患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

お知らせ

編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

責任者：副院長 小田桐 弘 毅

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地
TEL 0172-32-4311
FAX 0172-33-8614
URL <http://hirosaki.hosp.go.jp/>